

## 1. 長期成長ビジョン

循環型社会、環境構築のビジョンの下、「資源循環リサイクラーから、製造、リジェネラティブインフラストラクチャー移行」という戦略を掲げ、本事業で新工場設立、先端分別設備導入、処理設備のDX化を図ることで、画期的な省力化を達成する。

### 長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

#### ビジョン（実現したい未来像）

物：循環と共生が機能する物・品質、コストプロセス

- ・HSE（健康、安全、環境）の企業価値向上、競争力強化
- ・再生資源のブルーカーボン、グリーンカーボン社会実装（製品高付加価値化）
- ・自己発電、自己循環するプロダクト

場所：自然と循環が共存できる場所

- ・共創による技術、人的能力開発、ESGの実施とともに収益構造確立

事：環境価値を生む仕事行動

土壌、水、森の再生を行う事業（リジェネラティブビジネスの加速）

### 成長戦略（メガトレンドへの対応）

循環型経済の中核を担う価値創造産業へ進化する

物、事、場所への総合的ハード面ソフト面の大規模転換を図る

＊中期計画（5年）（本事業）

資源循環リサイクラーから製造、リジェネラティブインフラストラクチャーに移行

＊長期計画

地域と地球の未来デザインをするエッセンシャル産業へ

### 成長手段（本事業）

■新工場設立・省力化設備・システム導入による処理能力向上

- ・新工場設立により受入れ処理能力拡大
- ・AI光学システムで、現在手作業での廃棄物仕分けを、自動化、省力化する。
- ・MES（製造実行システム）により、処理設備の稼働状況を基幹システムに統合し、省人化、品質、生産能力向上

■混合物の自動選別ライン新設により、プラスチック、金属等の再資源化（資源循環国家戦略に貢献）

老朽化設備の集約とライン再配置により、処理能力・再資源化能力の両面で大幅な拡張を図る。中長期的な搬入量の増加に備える

#### 会社全体の売上成長目標（直近決算～2030年度）

- ・売上高増加額8,536百万円（6,716百万円→15,252百万円）
- ・売上高成長率12.4%

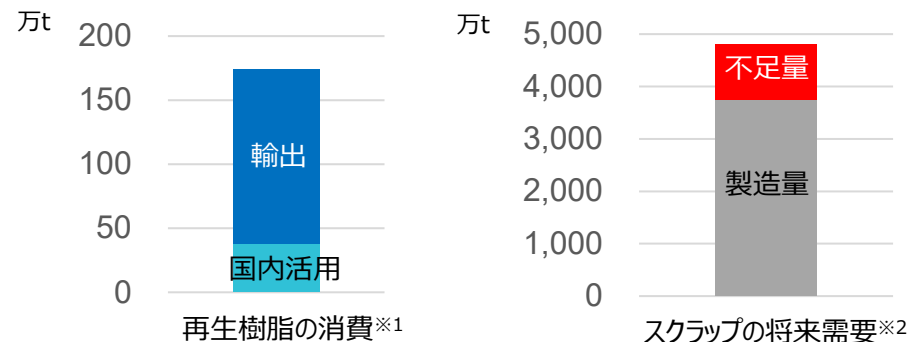
### 外発的動機

#### ① 再生樹脂のほとんどが輸出される

➡国内ユーザーの求める高品質・低価格なマテリアルリサイクルが必須

#### ② 国内スクラップは将来、需要に対して不足

➡高品位スクラップが不足しており、金属再資源化の対策が必要



※1 動静脈物流解剖図（2023年9月 経産省）

※2 鉄鋼資源循環戦略と課題（2023年12月 日本鉄鋼連盟）

### 内発的動機

#### ① 搬入量が工場処理能力を越え、顧客ニーズに応えきれしていない

➡これ以上の成長には工場増設が不可欠

#### ② 新規採用者、特に若手の教育環境を充実させたい

➡省力化による余剰時間を若手教育に充てる。自動化、AI活用で熟練者でないと実施できない作業を減らし、若手が活躍しやすい環境をつくる

#### ③「資源循環リサイクラーから、製造、リジェネラティブインフラストラクチャー移行」

➡日本のサーキュラーエコノミーを支える静脈産業のリーディングカンパニーとなるべく、廃プラスチック・金属のマテリアルリサイクルを強化し、動脈産業への再生材供給に進出する

➡更に、「再資源化100% 廃棄物の埋め立てがない日本をつくる！」を達成すべく、廃棄物を無害化・減容化・資源化する事業への大規模投資やM&Aを活用し、再生資源製造業、収集運搬、解体事業等への進出を実施したい

2.補助事業の概要

補助事業実施による付加価値向上により、労働生産性を年平均28.5%向上し、基準の年平均上昇率4.5%を大幅に上回る8.0%の賃上げ目標を確実に達成する。

補助事業の  
背景・目的

- ・【背景】 環境規制強化に伴う再資源化需要の拡大、廃棄物処理能力・処理精度の限界
- ・【目的】 持続的成長とサーキュラーエコノミー推進の実現
  - ➡廃棄物受入量の拡大
  - ➡混合物処理高度化による新規再生リサイクル品製造・販売強化（再生プラスチック、金属、再生砂、固形燃料）
- ・【課題】 生産規模拡大、処理能力（効率・精度・新規分別技術）向上、製品高付加価値化、安定稼働

事業費  
(補助額)

4,922百万円  
(1,641百万円)

設備投資の  
内容

経費項目	名称	投資額	効果	労働生産性向上
建物費	RPF製造/可燃混合選別/有価物（金属）統合プラントほか	18.4億円	・ <b>本社工場隣接地に新工場建設➡生産規模拡大</b> ・本社既存工場への改修・改善工事	・既存施設を含めた各プラントの役割再編、従業員再配置、レイアウト最適化、作業環境改善
機械装置費	選別機・破砕機	30.1億円	・ <b>分別工程：手作業の自動化による生産効率向上、製造コスト削減</b> ・ <b>AI・センサー技術活用による分別分級精度向上</b> ・本社既存工場効率化	・省力化設備導入に伴う生産工程自動化 ➡省人化・サイクルタイム大幅削減 ・製品の高付加価値化により付加価値額増加
	成形機			
	モニタリング設備他			
	その他設備			
ソフトウェア費	生産統括管理システム プラント3Dデータ化他	0.73億円	・生産管理情報の見える化による業務効率の向上、安定稼働の実現 ・廃棄物持込時の待ち時間短縮による処理業務効率化、顧客満足向上	・生産情報や機械設備の稼働状況がシステムに自動入力 ・廃棄物持込車両の場内整理や待ち時間問合せのための人員削減
	廃棄物持込待機場管理システム			

目標値

項目	基準年度	事業化報告3年目
労働生産性 (単位：千円/人)	15,160	32,134 (年平均上昇率+28.5%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：千円/人)	6,264	7,891 (年平均上昇率+8.0%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：千円/人)	-	- (年平均上昇率+6.0%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	145	180

